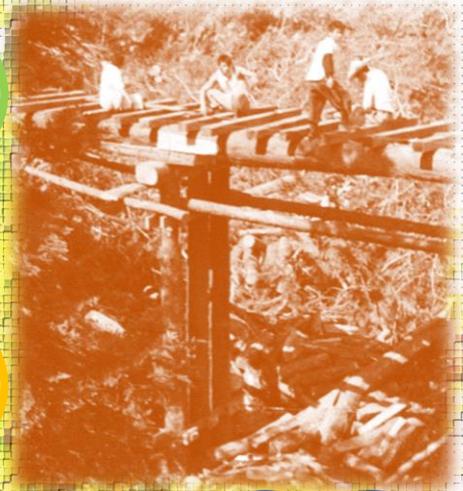


# え！ 六ヶ所村にも 鉄道 が! あったの？



ディーゼル機  
関車が走っ  
ていました！



川の上にも鉄  
道を敷いてい  
ましたよ！

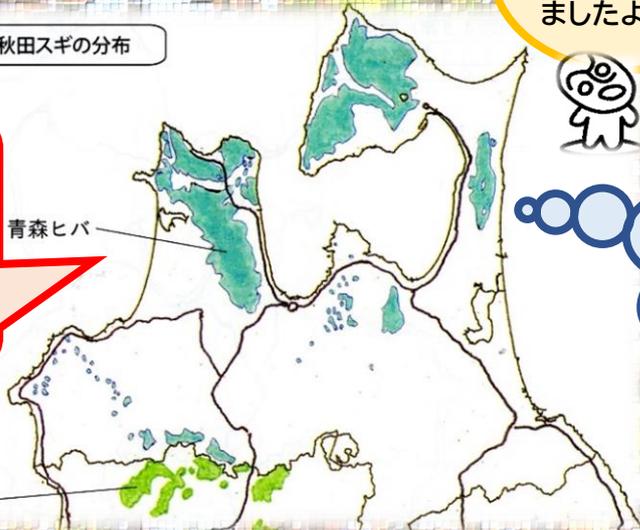


六ヶ所村は、江戸時代からヒバの柁の  
生産地でした。昭和 10 年から林道を整備  
し、ヒバ材を切り出していたんだね！  
人力で切り出し、トロッコに乗せて  
いたそうです！



青森ヒバ及び天然秋田スギの分布

下北半島と  
津軽半島に  
青森ヒバ林  
が広がって  
いました！



天然秋田スギ

## 六ヶ所村の森林鉄道路線図

旧尾駈山材木事務所



旧二又土場  
旧二又事務所

旧尾駈土場

郷土館



## 尾駈林道の歴史

六ヶ所村の山岳部は国有林。平地は御  
料地・御料林で、集落が民有地。軒下まで  
国有地となっていました！赤い線が、**尾駈  
林道**で、最長約 9 km の森林鉄道があり、内  
燃機関車が走っていました。

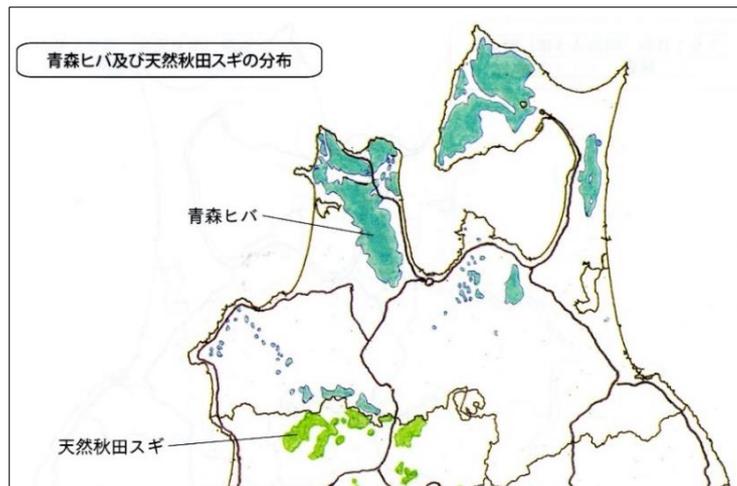
- ・昭和 10 年度 開設
- ・昭和 26 年度 二又土場から森林鉄道  
1 級で開設
- ・昭和 29 年度 930m 延長開設
- ・昭和 39 年度 全線を廃止。トラック輸送  
へ

## ※印の1, 2, 3は、ここ1年間で新たに分かったこと

### 1 青森県のヒバ林の分布図

下北半島と津軽半島に三大美林の一つ、青森ヒバ林が広がっていました。戦後の高度成長期の木材需要にこたえる形で昭和40年代には、そのほとんどが伐採されてしまいました。

現在、野辺地町の烏帽子岳には、ヒバの原生林が残っています。



### 2 森林鉄道線路の敷設の変遷

旧横浜営林署・尾駈山材木事務所内の森林鉄道線路図の赤い線が、元尾駈林道にあった森林鉄道の軌道を表しています。当初は、二又の土場から、約3尺の長さに切ったヒバの丸太を老部川に流し、現在の老部集会所にあった旧尾駈の土場に貯木していました。昭和10年から昭和39年まで、約9kmの森林鉄道が走っていました。

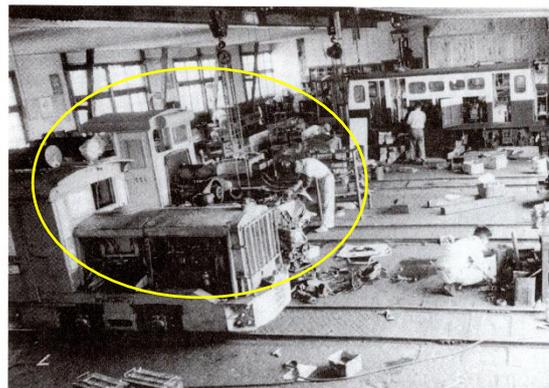


※1：尾駈林道と二又林道の二又土場の間は、線路ではなく人道で結ばれていたことがわかりました。

### 3 尾駈林道の変遷について

- (1)昭和10年度、尾駈から老部川を遡上し外カクハン沢までの5,303m (12%、33%、30m) を開設。
- (2)昭和13年度、既設終点から北シライ沢までの4,440m (26%、33%、30m) を延長開設。
- (3)昭和23年度、5,770mを牛馬道に格下げ。(3,973m)
- (4)昭和26年度、新たに二又貯木場から棚沢山国有林3林班北シライ沢までの5,684m (25%、48%、20m、2.2m) を**森林鉄道1級**で開設。この際、2級の3,973m及び牛馬道の1,711mを格上げ利用。
- (5)昭和29年度、930m (33%、50%、15m、2.1m) を延長開設。(6,614m)
- (6)昭和36年度、2,356mを廃止。(4,258m)
- (7)昭和37年度、1,810mを廃止。(2,448m)
- (8)昭和39年度、全線を廃止。

※2：青森運輸営林署での修理の様子の写真から、**機関車の番号が「051」だと判明しました。**

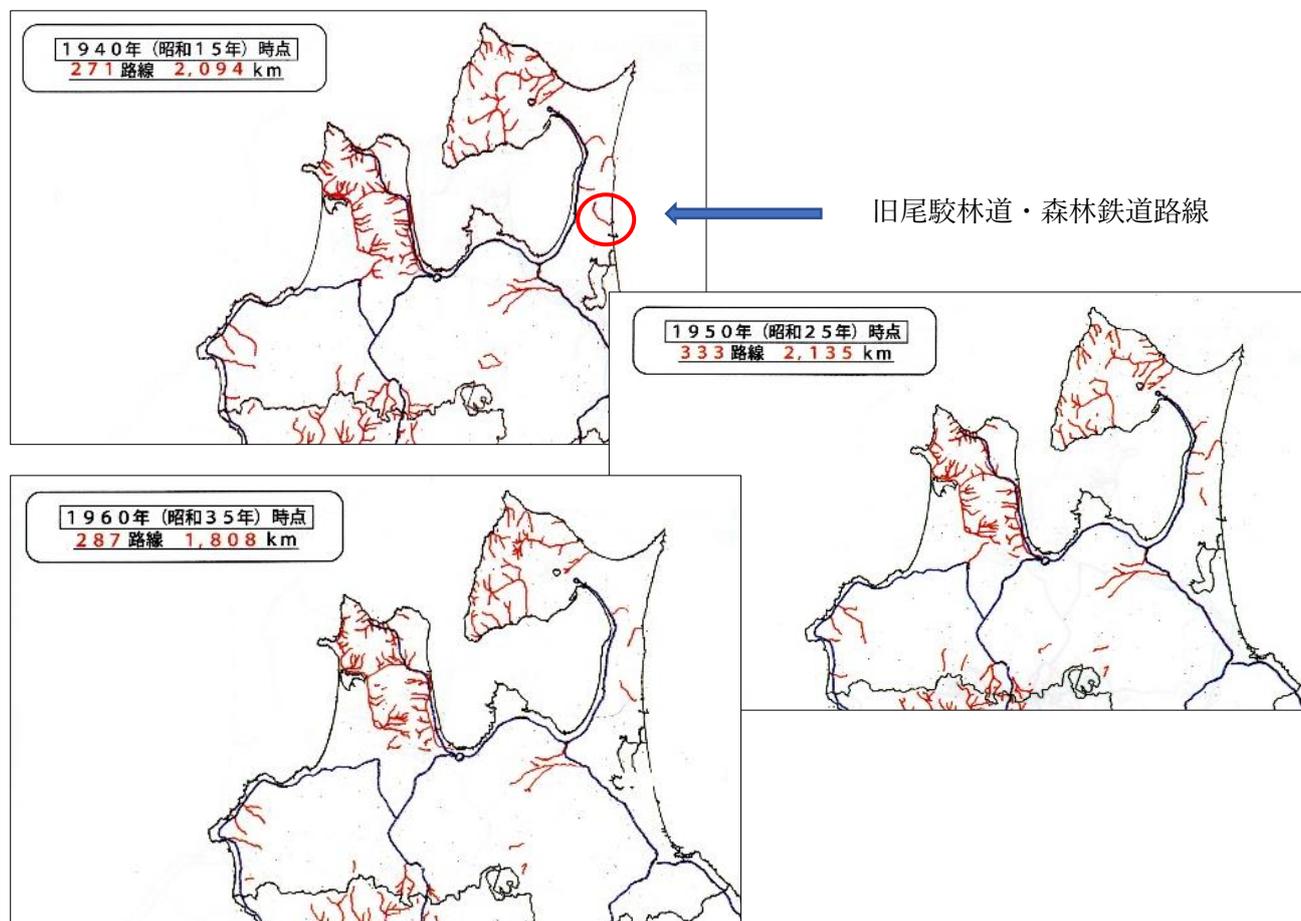


青森運輸営林署の修理工場内部

#### 4 1940年・1950年・1960年の森林鉄道線路図

六ヶ所村の尾駁林道の変遷が分かります。

昭和15年には約9 kmありました。昭和25年には、約5.7 kmの森林鉄道が二又の土場から北へ伸びていました。昭和35年には、約6.6 kmに延長されています。



※出典：「近代化遺産 国有林森林鉄道全データ 東北編」

#### 5 二又地区在住の秋戸慶典さんからの聞き取りの記録

- (1) 昭和24年から昭和35年まで、働いていた。ヒバ材の積み出しを行っていた。
- (2) トヨタのガソリン車を2年間使うが、止まれなく軽くてダメだった。砂を積んでブレーキの時に滑り止めとしてレールに砂をまいたが、砂を入れておくタンクが機関車の上部で、まく作業が大変だった。二人でやらなければならなかった。
- (3) ディーゼルに換えたら、砂をまく装置が機関車の下部にあったので、楽だった。
- (4) 保全係で、時々助手を行う。エンジンは「いすゞのディーゼルエンジン」だった。
- (5) レールは、6 kg / 1 mは一人で持ち、9 kg / 1 mは二人で持った。一本約6m～7m。
- (6) 冬は伐採した材をソリで運んだ。夏は、トロッコで運んだ。林道の平らなところは、トロッコを押して運んだ。1日に3回ヒバ材を運んだ。7～8台のトロッコで運んだ。二又の土場には、運送屋のトラックが、ヒバを運んで行った。その他には、3尺にヒバ材を切って、老部川から現在の老部川集会所の土場に流した。冬には二又林道の間地点の土場に、杭を打って飯場小屋を

建てた。5～6間の10人くらいが利用できた。森林局の職員は、事務所を利用してた。

(7) 山に入るときは、山の神様に鳥居を立てて祈ってから入った。12月12日は、山の神様の日で、林道の中ほどの土場にあるヒバ材で作った鳥居のところで祈祷した。休みで、飲み会を行っていた。

(8) 林道中間地点に、トタンを張った小屋には、ダイナマイトを置いていた。岩を取り除くために使用していた。

(9) 「二又の山は、天皇の土地で、弥栄の土地は、皇后の土地」といわれていた。昭和30年代は、二又も、木や笹もなかった。尾駁山は、昔、尾駁の人が薪をとる山だった。北側は、ブナ山。薪は200円～300円で売った。富ノ沢は、村の牧場だった。

## 6 二又事務所の間取り (2階建て) について

※3: 事務所の写真が見つかりました!

1階事務室等の間取り図

2階の間取り図

風呂	脱衣所	階段		食堂
事務所				

	階段	
部屋	部屋	



二又事務所 木村豊春氏より提供

## 12 旧二又貯木場と土場の地図



二又土場の航空写真 1968年(S43)  
二又事務所や内燃機関車の車庫、軌道跡  
を見ることができる 写真出典:国土地理院 HP

二又事務所